

日・中母語話者の格助詞「を」と「から」の選択について

杉村 泰

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

sugimurayasushi@gmail.com

1. はじめに

研究生の応募メール：

- (1) 私は中国の〇〇大学から(→を)卒業した〇〇と申します。

2. コーパス調査

湖南大学学習者中間言語コーパス：

平成 22 年度～平成 25 年度科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号 22320093、研究代表者：杉村 泰) 『中国国内における日本語学習者の縦断的中间言語コーパスの構築と動詞の習得過程の解明』

作文データ

19 回目 (4 年生の 1 学期) 「卒業とは」 (2012 年 12 月 21 日) (75 人)

「～から卒業する」 20 件

- ・ 大学から卒業することはどんな意味を含めるか。(66-19)

「～を卒業する」 4 件

- ・ 大学を卒業したら、就職か大学院に入るか、いつもそのように考えていた。(24-19)

「～に卒業する」 1 件

- ・ 大学に卒業するまで、私の人生の 20 年ほどの時間はずっと学校にすごして、(16-19)

「～から離れる」 4 件

- ・ 卒業とは、人生の新しいスタートともいえる。学校から離れて、社会人になる。(53-19)
- ・ 経済的でも生活でも親から離れ、本番の一人暮らしを始める。(67-19)

「～を離れる」 1 件

- ・ 一年生のとき私ははじめて浙江省を離れ、湖南省にきた。(23-19)

「～から出る」 5件

- ・卒業は狭義で学校から出ることで、社会に入ることだ。広義では一定の段階にある場所から離れて新しい段階に入ることだと思う。(12-19)
- ・卒業とは大学から出て社会あるいは外国に入るということだろう。(31-19)

3. 先行研究

三宅 (1995, 1996)

- ・意志的にコントロールされない移動の場合は、ヲ格を使うことができない。
 - (2) 煙が煙突 {*/を/から} 出た。
 - (3) 太郎が部屋 {を/から} 出た。
- ・着点をも同時に含意する場合は、ヲ格を使うことはできない。
 - (4) 太郎が部屋 {*/を/から} 庭に出た。

楠本 (2002)

- (5) 太郎を殴った (力学的な支配力)
- (6) 良き友を持つ (心理的支配力)
- (7) 山を登る 角を曲がる (主体の行為が行われる領域として一種の占有意識が働く)

「このような「支配性」は「を」格文に共通して見られる現象であり、それ故「を」格に対するスキーマ的要素を含むものと考えられる」(p. 8)

(「家を出る」「大学を卒業する」「席を立つ」等について)「これらの「を」格文は主体が属していたものからの離脱を表し、さらに「私ごと」の延長として離脱する目的が暗示される(例えば、「家を出て会社へ行く」等)というように学習者に教えるならば、「を」格の存在が理解出来、正しい使い方が出来るようになるであろう」(p. 10)

4. アンケート調査

被験者

- ・名古屋大学1年生 58人 (2004年11月18日、於名古屋大学)
- ・北京第二外国語学院日語系4年生 50人 (2004年11月24日、於北京第二外国語学院)
- ・上海外国語大学日本文化経済学院4年生 50人 (2004年11月29日、於上海外国語大学)
- ・東呉大学日本語文学系4年生 49人 (2004年11月30日、12月2日、24日、於台北 東呉大学)

表 日本語話者と中国語話者の「を」と「から」の選択率の比較 (%)

| | 日本語話者 | | 中国語話者 | |
|---------------------------------------|-------|------|-------|------|
| | を | から | を | から |
| 1. 私は毎日7時に家 () 出る。 | 100.0 | 0.0 | 72.5 | 27.5 |
| 2. 彼はアメリカの有名大学 () 出た。 | 100.0 | 0.0 | 46.3 | 53.7 |
| 7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート () 出た。 | 89.7 | 10.3 | 67.4 | 32.6 |
| 6. 彼女は大学 () 出て、まっすぐ家に帰った。 | 87.9 | 12.1 | 53.7 | 46.3 |
| 4. 彼女は家 () 出て一人暮らしを始めた。 | 86.2 | 13.8 | 63.1 | 36.9 |
| 10. 彼はヤクザの〇〇組 () 出る決心をした。 | 84.5 | 15.5 | 58.4 | 41.6 |
| 5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学 () 出ることになった。 | 67.2 | 32.8 | 56.0 | 44.0 |
| 11. 彼は刑務所 () 出て、すぐに捕まった。 | 65.5 | 34.5 | 47.7 | 52.3 |
| 13. 彼女は裏門 () 出て、すぐに車にはねられた。 | 44.8 | 55.2 | 37.6 | 62.4 |
| 12. 地震でつぶれたビル () 出た。 | 12.1 | 87.9 | 30.9 | 69.1 |
| 3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室 () 出なさい」と言った。 | 8.6 | 91.4 | 59.4 | 40.6 |
| 8. 警察が犯人に、「そのビル () 出ろ」と言った。 | 8.6 | 91.4 | 24.8 | 75.2 |
| 9. 犯人は逃げる時、裏口 () 出てきた。 | 8.6 | 91.4 | 24.8 | 75.2 |
| 14. 夫が知らない女の家 () 出てきたのを見た。 | 6.9 | 93.1 | 26.8 | 73.2 |

注：3、7は東呉大学で1人ずつ未回答。5は上海外国語大学で1人未回答。未回答は1人当たり0.5人として計算した。

5. 日本語母語話者の「を」と「から」の選択

- 1. 私は毎日7時に家 () 出る。(を：100.0%、から：0.0%)
 - 6. 彼女は大学 () 出て、まっすぐ家に帰った。(を：87.9%、から：12.1%)
 - 7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート () 出た。(を：89.7%、から：10.3%)
- ⇒「家」での家庭生活、「大学」での勉強、「デパート」での買い物等の活動を終え、次のステージに入ることを表す。(「会社 { *から/を } 辞める」)
- 14. 夫が知らない女の家 () 出てきたのを見た。(を：6.9%、から：93.1%)
 - 9. 犯人は逃げる時、裏口 () 出てきた。(を：8.6%、から：91.4%)

12. 地震でつぶれたビル（ ）出た。(を : 12.1%、から : 87.9%)

⇒「女の家」、「裏口」、「ビル」からの離脱を表す。

・「から」格は〈起点〉を標示し、「を」格は〈働きかけの対象〉を標示する。

(8) 台風の時は家から出るな。地震の時は家から出る。 (?家を)

(9) 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。(川端康成『雪国』) (?トンネルから)

(http://blogs.dion.ne.jp/usawant_you/archives/2004-10.html)

(10) a. 太郎が煙突から出る。 船が港から離れる。 花子は担当から外れた。 (起点)

b. 太郎が煙突を出る。 船が港を離れる。 花子は担当を外れた。 (働きかけ)

(煙突内の移動) (港を後にする) (担当を辞める)

6. 日本語学習者の「を」と「から」の選択

1. 私は毎日7時に家を出る。(母語話者 100.0% 北京 86.0% 上海 56.0% 台北 75.5%)

2. 彼はアメリカの有名大学を出た。(母語話者 100.0% 北京 28.0% 上海 70.0% 台北 40.8%)

6. 彼女は大学を出て、まっすぐ家に帰った。

(母語話者 87.9% 北京 68.0% 上海 38.0% 台北 55.1%)

⇒そこでの活動を一段落させ、次のステップに移るイメージ。単なる〈起点〉ではない。

7. 「～から卒業」が自然な場合

・就職する人であれ、学業を進む人であれ、①大学からの卒業は人生の一番重要な転換の一つだと思う。

(67-19)

・人生の中には、①様々な「卒業」がある。小学校から、中学校から、高校または大学から。今の私、大学から(→を)卒業して社会に入学する。年取った時、会社から退職すべきだ。あの時は②社会から卒業するとは言えらうか。亡くなるときはこの世の中から卒業になる。(31-19)

・ですから、早く②子供から卒業しなければいけません。(58-19)

①「卒業」が名詞の場合 ②脱出の意味の場合

参考文献

楠本徹也 (2002) 「「を」格における他動性のスキーマ」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』

28, 東京外国語大学留学生日本語教育センター, pp. 1-12

三宅知宏 (1995) 「ヲとカラ —— 起点の格標示 ——」宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法

(上) 単文編, くろしお出版』, pp. 67-73

—— (1996) 「日本語の移動動詞の対格標示について」『言語研究』110, 日本言語学会, pp. 143-165